（二日夕刊）

休刊　大祭日　第一　第三日曜
定價　一部二錢郵稅　一ケ月六十錢十五錢
廣告料　壹行六十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　鹽沼龍輔
發行所　磐城新聞社
福島縣平町田町十六番地
電話五六四番

# 日ひ出草

（42）

哲

## 古いスクラップブックから

### 上川丸船中

（大正八年秋稿再び樺太への一齣）

○

『さあもう直ぐだぞ』

彼は欄干に凭れて朝靄に裹まれた遠い山々を眺めて居る例の女に言葉をかけた

『もう二時間だそうですよ』

女は振り返るなり恁ふ云つて烈しい風に亂された髪を掻い撫でるのであつた。

『嬉しいだらう』

女は彼の皮肉に只にや〳〵笑つて許りゐた。

『併し男も嬉しいだらう、思ふ女がこう海山越えて來たんだからなあ』

大　上陸が近づいて心嬉しい彼は生々した氣分で盛んに女を揶揄つた。女は何か新らしい心配でも思ひ浮べたのか蹙張り浮き立たなかつた、彼にも不自由な長い船車の旅が終へたと云ふ安心はあつたが愈々あと一時間で大〻へ上る、當分内地へは歸れないんだと思へば道に一種の新愁を覺えずには居られなかつた。

船は亞庭の灣内へ入つて から間　るつこい程長い時間がかかつた。

大〻の聳い山がゐえる樣になつた頃には一同甲板へ出て知るも知らぬもがやく船は恐ろしい音を立てて碇を下ろした。

本船さして來る小蒸汽は木の葉の如くきん離されて甲板は折々潮水に洗はれるのであつた。

雜多な喚めき叫びの裡に一同は艀に移つた。

荒い波は艀と本船とを衝き

〳〵と賑やかな話を始めた彼は默つてそんな光景を眺め乍ら、上陸少し前に於ける船客の動搖みと云つた樣な事を思つて見た。

晩秋の大泊港はかなり時化てゐた。漸く大泊の山が近づくに隨つて船の速力は緩るやかになつた。

カン〳〵カン〳〵

鐘が鳴つたと思ふ間も無やつと解つた。

『有り難ふ』

女は無言で受取つた。

『何處へ行く』

女は泊りつけの宿でもあるかと訊いた。

『尾崎へ行かう』

彼はそう云ひ乍ら以前の尾崎を見たが何處かへ移轉したと見えて家の模樣が悉く

突けては折々高い潮水を跳ね上げるのであつた。

彼は合財袋や行李の荷物をどん〳〵投げつける船員の無責任振を思ひ乍ら艀の出るのをもどがしがつた。

高い波の間を縫つて艀は間も無く船入溜に着いた。陸には澤山な人達が出て居つた。

○

波止場には谷と云ふ彼の友達が出てゐて呉れた。

『やあ』

『やあ』

お互の挨拶は極めて簡單なものであつた。

『さあ行かう』

友達は友を誘ふのであつた。

『いや一寸待つて呉れ給へ船の中で小錢が無くて貸して貰つた女が今上るからそれを返して行くから』

と彼はぞろ〳〵上つて來る人の中からその女を見逃すまいと注意してゐた。

『あれだらう』

友は彼から人相恰好などを聽いてゐたので視力の鈍い彼より先に女を見つけた

『そうだ〳〵』

彼は女の近づくに隨つて

『天の美祿チトばかりよい心持になりかけた』腕も豪いが飲むのも豪いと役人達も顏をみ合せて呆れ返つてゐる――『亭主代は何程だ』……『へエ』――『拙者は八丁堀岡崎町家主萬吉店浪人中山安兵衛と申す者だ、今日高田の馬場で聊かの仇討の眞似を致した、酒のお代は八丁堀へ取りに來てくれるよう』役人愈々呆れた文なし先生が我々を立會はして酒の借金をする、腕はなす何處から何處まで豪い……『旦那樣が馬場で十八番切をなすつたお方でございますか、商賣にかまけて見に轉行かなくて惜しい事をしました、代金は只戴いしませ

## 拈華微笑

◇

救濟の間口が廣けりや奥行が短くなる、失業者も我慢せよ

◇

ステーションホテル。ストーブで浮浪人に賣り出した平驛待合

◇

お役目柄早く着く鐵道關係のポーナス

◇

乞食同志の盜難沙汰。この界隈にも暮れ氣分

○……○

自ら係蹄にかゝた樣な好間某の拙いトリック

◇

皆變つて居つた。

――（今月今日）――

〈巡査に帶劍せしむ（明治一五）〉那翁三世クーデターを行ふ、自家の權力を揮はんが爲めである（紀元一、八五一）〈モンローの議會へ送つた主義の宣告、大統領モンローの議會へ送つた教書、然れども今は世界の共通米國すでに此主義を固執しない（紀元一、八二三）

## 講談

### 赤穂義士

東京　桃川燕二演

村田月光書

（一一六）

酒を飲み倒した上に禮

安も餘り愚圖ではなかつた

と見えて、十八人も人を切つたせ』――『とむらい安でも腕は確かなものだな』

『ヤア』……『ゾロ！　安兵衛

ぬ、此の桝は手前共の寶物にして置きます、飲んで下すつて有難うございます』

『ホウ代はいらぬといふ……』

『何を申す左樣な事聞くのではない扨々天晴れなる店子をもつて其方も鼻が高いの道理、此者を引渡すによつて疎略にしては相成らぬ、充分いたわり取らせろ』

『ウムヘエッ』――『匆々引取りまするやう』其處で穴藏屋萬吉と同道して戻つて參りました、其日は夜分になつたから寢てしまつたが、翌朝安兵衛近所を歩くと……『ヤア赤鞘が來たぞ』――『ウム赤鞘だ』

豪いことをやりやアがつた

衛身なりは恐いしいが、勇名はそれからそれへと傳はなもんぢやアねへか、愚圖の跡を着いて來る、安兵衛と聞いて家の中から飛出して見る奴、路次の中から跳出す奴大變な騷ぎだ、流石の安兵衛もうるさくて堪まりません這う〳〵の体で逃げ歸つたがそれから一向外へ出ない、穴藏屋萬吉が

『安兵衛さんどうかしたか』

『オヽ家主か』……

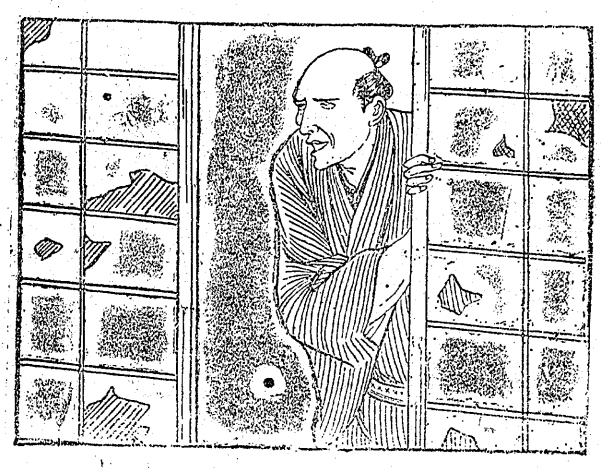
『ちつとも外へ出なさらない樣だが、お前さんは郡代屋敷から預かつて來た人だ病みでもされちやア大變だ

それでみに來たのだ』……

『感心郡代から預り者を病氣にしては好くないとは巧い事を云つた、代官の云つた事を家主覺えてゐるだらう』――『そりやア覺えてゐます』……『中山安兵衛をいたはれと云つたな』……

『其通りで』――『ところが家主少しもいたわらないちやアないか』……『いたわればこそ斯うして心配して』に來て居ます』――

『そんないたわりやうぢやアいたわり方が足りない、モットいたわれ』――『店賃がたゞで飯がたゞで是れよりいたわりやうはありません』――『まだいたわりやうがある』……『ヘエー』……『酒を一升いたわれ』――『貴方に酒をいたわつた日には立往く事が出來ませんや、仕舞ひには夜逃げでもしなくちアなりません』……『歟か』――『ママ御免蒙りませう』



## 童謠詩

### 野良歸り

市川健次

いち日田圃で
稻扱いた
父さんにおんぶして
歸るみち

箱根にしづむ
二日月
五位さぎ啼いて
渡ります

草の露しと〳〵と
ふんでゆく
父さんの背なか
汗が匂ふよ

## ラヂオ番組

三日（曜）

東京　JOAK

〈午前七時ラヂオ體操（大阪より中繼）△九時氣象通報　△九時十分日用品値段、料理獻立（鯖の直火燒）工學博士櫻井省三發表　〈十時三十分家庭講座（照憲皇太后の御德を偲びまつりて）陸軍中將長岡外史　△正午時報、午後〇時五分尺八獨奏　一、黃鐘調　二、阿字觀、源雲界　〈〇時四十分ニュース　二時家庭大學講座（植物と人生）第十講果實神子の散布、植物の分布、理學博士川村清一　〈三時四十分氣象通報　△四時ニュース　〈五時四十五分職業紹介事項　〈六時（子供の時間）落し噺『權兵衛さんと狸』蝶花樓馬樂　〈六時三十分英語講座、初等科（二八）岡倉由三郎　△七時ニュース　七

氣象通報

仙臺　JOHK

〈午前九時十分料理獻立（大根のふろふき）及川柳子發表　日用品値段　午後〇時四十分ニュース　氣象通報、告知事項　〈四時ニュース　五時四十五分今晩の番組豫告　△七時ニュース、氣象通報、番組豫告、告知事項　〈九時四十分番組豫告、告知事項


内科、小兒科
花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番
入院應需

第二回長期裁縫講習會
△科目　裁縫ヲ主ト　希望ニヨリ作法　料理法　編物生花等無料ニテ教授ス
△會費　一ケ月金壹圓
△會場　陽女學校
△服裝　隨意
△齡　制限アリマセン
△入會　何時デモ入會出來マス
△特典　講習六ケ月終了者ニハ證書ヲ差上ゲマス
石城郡平町
平陽女學校
尚本校内に寄宿の便もあり但し食費一日二十七錢で頗る底廉であります

冬のサロン
暖房裝置完備しました
暖かい御飲物
暖かい御料理
そしてカクテール種々
洋食進の季節になりました
ドーゾ御來店を
サロン
番二五三電町田町

ヨウ
モーダン！
斷然三〇年型だナ
ドコの新調だい
コレハレイの
ソレ正札堂さ
品は豐富で選取り取り
時代をリードするこゝスタイル

新マツダ斯瓦入
電球三割値下
十五ワット　二十五ワット　三十錢
四十ワット　三十五錢
六十ワット　百ワット　六十五錢
一個デモ御電話ガアレバ早速御屆ケイタシマス
是非御用命ヲ願マス
特約店
大谷時計病院
電球部
電話十九番

夜診療
胃腸
内科
指二十
病
専門
部
内科
極毒
淋病
皮膚病
婦人病
専門
部
外科
松村醫院
胃腸性病
（平南町電話一〇七番）

障子紙　屏風紙　唐紙　壁紙
いろく取揃へ大勉強販賣
平町土橋
福麥マルマン商店
電話四八九番

皆々樣御期待ノ
愈本日午後五時花火合圖開場何卒御ヒキ願外
朝日會女流團大一行
入場料　割引券發行致シマセン　特別大勉強　木戸御一名　金二十錢
聚樂館

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

磐城共濟病院案内
本病院は時局に鑑み八月一日より入院料並に往診料左の通り低減致候間御參考迄申上候
入院料一日……一般　金武圓也　本會員　金壹圓五拾錢
往診料……院長及其他（一般金參圓也　平町の博士に限り（本會員金貳圓也）內
尚地方往診料も之れに準じ低減致候間此段申添候也
（各科專門醫擔當）
內科
小兒科
外科
皮膚泌尿科
整形外科
內臟外科
產婦人科
女子泌尿科
耳鼻咽喉科
X光線科
物理學的診療科
院長　醫學博士　難波睦
本院主管　賀澤忠治
◇看護婦募集
◇衛生試驗所
◇病氣相談所
◇救療所
●救療を申込るゝ方は當相談所へ御話し下さい。
昭和五年九月
磐城共濟會
平町　電話六四一番
共濟病院内

毛糸
編物夜間御教へ致シマス
國產優等毛糸　一オンス　十二錢
國產中細毛糸　一オンス　十四錢
國產極細毛糸　一オンス　十五錢
國產霜糸降毛　一オンス　十八錢
一封度（十六オンス）以上ハ御値デ差上マス
編物器具類ナラドンナ品デモハシモトヤデ御間ニ合セ致シマス
平町田町
ハシモトヤ糸店

# 全部を潤す方針で 年内一回宛採用する

## 登録失業者と水道擴張工事 誤解せぬ樣

―遠藤町助役―苦衷を語る

平上水道擴張工事に就ては曩報の如く過般町の職業紹介所に於て失業登錄をなしたる男二百二名女十八名中より第一回第二回各二十人第三回三十名を採用し漸次全部に及んで年内中一回宛出役の恩惠に均霑せしむる方針の下に大体十日間を一期として更新採用しつゝある

右に對し該事業が昭和三年以降の計劃に係り町民の生存上緊急已むべからざるに出でた事業なるに拘らず適々現今の失業地獄を救濟的和する爲一部失業者を採用したる處から恰も內務大臣の認定したる所謂失業救濟事業と穿き違へ該事業に採用さるる事を以つて此際恰も失業者に附與された權利なるものの如く誤解し理事者側が前記方針の下に適當なる時期に於いて更新採用するを不當なりとし中には同志連署の上之の間の匡敎策に就てその筋に陳情せんとするが如き劃策さへ行はれたるものの如く傳へられる程で該趣旨の普及徹底に就ては理事者側でも目下少からず頭を惱ましてゐるが右に關し擴張部長たる遠藤町助役は語る

――假令僅かな日數でも年內中全部に及ぼし度い考へから特定の人間に獨占せしむる事が出來ず己むを得ずその都度切り替えて順番に採用してゐるのであるが此の恩惠的方針によると良い鹽梅に熟練した頃更らにあら手の勞働者を入れ始終熟練を欠く勞働者のみを採用する勘定となつて全能率の大局から觀て町の拂ふ犧牲は蓋し少からぬものがある、而も事業の性質上最少の經費最短の時日を以つてより完全に之れが竣功を期せねばならぬ事業なるに拘らず他の專門的熟練勞働者に優先してその間些か遜色あるべき登錄者を採用しつつある當局の苦衷を知らずに己れが獨占事業の如くに穿きち違へ勞働日數の不足を彼此云はるるに至つては眞に立つ瀨がない、此の邊誤解ない樣して欲しい。云々

## 暖を採る浮浪者に 手古摺る驛當局

一般が迷惑するので 其の追ひ拂ひ策に腐心

紛雪がちらついて手も足も凍り付く樣な昨今の寒さにて職を失ひあてどもない旅から旅をさまよう人々が昨日も今日も幾人か職業紹介所や人事相談所の窓口に或ひは一碗の飯を求め或ひは僅の旅費の支給方を願つてゐるが歲晚だけに一しほ哀れである平町では根が炭礦地である丈け之等の人間の流れ込み方も他の市街地より一層多く夜の平驛邊はスドーブ圍む之等の連中で夜行客の迷惑も少なからず驛當局でも之れが取締に苦心してゐると

## 傳書鳩訓練 馬の人工受精に

石城産馬組合

の上川技手は今春傳書鳩にの旅費の支給方を願つてゐるが歲晚だけに一しほ哀れである平町では根が炭礦地に鑑みて明年は特に組合もである丈け之等の人間の流れ込み方も他の市街地より一層多く夜の平驛邊はスドーブ圍む之等の連中で夜行客の迷惑も少なからず驛當局でも之れが取締に苦心してゐると

傳書鳩訓練 馬の人工受精に

石城産馬組合

の上川技手は今春傳書鳩にの旅費の支給方を願つてゐるが歲晚だけに一しほ哀れである平町では根が炭礦地に鑑みて明年は特に組合もである丈け之等の人間の流れ込み方も他の市街地より一層多く夜の平驛邊はスドーブ圍む之等の連中で夜行客の迷惑も少なからず驛當

## 十五日頃に來る ボーナスつなみ

鐵道關係の惠比須顏

昨紙に於て逸早く一と景氣をつけた如く今月は一般官廳、銀行會社のボーナスで一般官廳ボーナスは世間では大分良好だと

平署警官異動

平署管內警官異動三十日付發表

左の通り發表さる

夏井駐在　石井耕兒
綿請願へ　綿請願へ　佐藤寛一
江名在所へ
八仙駐在　井上潔
竹の內派出所へ
高坂請願　高子與三郎
夏井駐在所へ
竹の內請願　板木信意
高坂派出所へ
江名町駐在　高橋勝藏
宮請願へ　宮請願　高橋辰三郎
川俣署へ

## 言ひ遁れに窮して 僞りの盜難屆け

好間の納稅組合長 平署に拘留さる

好間村北好間槐ヶ作小田炭に破產の己むなき事情に立つて祐天上人第一靈場大浦村を催す由で同院ではお十夜最勝院では數十發の煙火をあげ午後六時より盛な法要を營み七時より申込順によると

十月は「お十夜の月であります」その緣起は今より一千餘年前卽ち人皇五十四代仁明天皇の承和十四年十月に始まり人皇百三十代後土御門帝の御字明應三年宮中に於て引聲念佛の法要を御修行致さる一時に天皇叡感あらせられ後ち祐天上人の御轉住せられた關東總本山鎌倉光明等の恒例法要として勅

## 祐天上人の大浦で 盛大に十夜供養

明三日夕刻から 善男善女で賑ふ

明三日はお十夜の緣日なの其他餘興として琵琶歌其他で祐天上人第一靈場大浦村を催す由で同院ではお十夜最勝院では數十發の煙火をあげ午後六時より盛な法要を營み七時より申込順によると

十月は「お十夜の月であります」その緣起は今より一千餘年前卽ち人皇五十四代仁明天皇の承和十四年十月に始まり人皇百三

## 引き抜き空氣銃 課稅緩和の形勢

其筋の意向稍々軟化

狩獵法の改正實施により空氣銃に課稅される事になつた關係上石城郡內にも相當廢銃屆出であるものと豫想さるる旨昨報の如くであるがその筋ではその後各方面から反對の陳情が殺到したので右適用を緩和することとなり各地方長官に通牒したので警視廳の如きは一日の記事を拜見して同感するものである、殺人的不景氣の魔の手はコレでもかコレでも滯る時は有無を言はせず立退を迫られる、店と云ふものを持たねば生きられぬ、商人は脅迫さるる樣な思ひで收入の過半は家主に支拂ふてゐる、家主に對する苦だ。

## 家賃値下げ

投書歡迎

先日のこの欄で家賃値下げの記事を拜見して同感する時代その儘で一向に値下げ始してくれる位の親切があるものである、殺人的不景氣の魔の手はコレでもかコレでも滯る時は有無を言はせず立退を迫られる、店と云ふものを持たねば生きられぬ、商人は脅迫さるる樣な思ひで收入の過半は家主の家主は當然脫稅位はしてゐるから儲けといふものはさらにない、一体われ〳〵は何ドウしたらよいのか

○

此の不況のドン底に際しら家主連が協力歩調をとつて地代引き下げの運動を開始してくれる位の親切があるものである、殺人的不景氣の魔の手はコレでもかコレでも滯る時は有無を言はせず立退を迫られる、店と云ふものを持たねば生きられぬ、商人は脅迫さるる樣な思ひで收入の過半は家主の家主は當然脫稅位はしてゐる、家主に對する苦だ。

○

五十圓の家賃に對して三十圓の割合の稅金位より支拂ふてをらぬ、現に五十圓の家賃をとりながら店子に對し稅務署や町役場の役人が三十圓といふてくれなくが宿借りにもぐり込んで來たので寒さは誰も同じ事で居る乞食であるが一日夜も例の如く莚一枚敷いて寢てゐると午後九時頃之れ名二遍返しを食事近藤某(二)が宿借りにもぐり込んで來たので寒さは誰も同じ事で居る乞食の仙臺在生れ一